



開放される 青の幸福感が 忘れられません。

俳優
山口 智子

1964年10月20日生まれ。1988年NHK連続テレビ小説「純ちゃんの応援歌」で俳優の道へ。出演作は『ダブル・キッチン』（'93年）、『29歳のクリスマス』（'94年）、『ロング・バケーション』（'96年）など。2010年から10年をかけて世界を旅し、美しい音楽文化をライブラリーに収めるプロジェクト『LISTEN.』を開始。旅を通して文化を伝える活動により2023年「兼高かおる賞」受賞。日本再発見の旅を綴るYouTubeチャンネル「山口智子の風穴!？」を配信。

知事 NHK連続テレビ小説「純ちゃんの応援歌」で俳優の道に入られ、その後も数々のドラマに出演し、世の中を魅了し続けられている山口智子さん。2010年からは世界を旅しながら音楽文化を映像に収める活動が続け、2023年にはYouTubeチャンネルを開設して、日本に改めて出会い直す旅の記録を配信しておられます。そんな旅のエキスパートのような山口さんが、昨年は香川県の観光に特化したせとうち観光専門職短期大学のトークイベントに出演されることとなり、それに先立ち県内を旅してくださいました。

山口 世界のさまざまな民族を訪ね、その風土から生まれた、生きるパワーを生み出す音楽を追いかけました。小豆島の太鼓台の奉納、あの祭りも世界に誇る「音」文化ですね。太鼓のリズムとともに、「えい、しゃしゃげ」とみんなで声を合わせて、心を一つに重い太鼓台を持ち上げて奉納する。一年に一度、自然の恵みに感謝して、みんなでまた頑張っていこう！と力が湧いてくるような、生命力の復活再生の祭りだと思いました。

知事 なるほど、再生の音文化ですか。山口さんは音楽のみならず、「山口智子の風穴!？」というYouTubeチャンネルも配信しておられますね。



皆さん、 いつでも何度でも 帰って来てください！

香川県知事

池田 豊人

香川県の旅を開始したところ。今回も瀬戸内の美しさ豊かさに感動しています。こんな美しい故郷に生まれ育ったら、世界に自慢したくてしょう

山口 香川県を本格的に訪れたのは昨年が最初でしたが、その後も秋祭りの太鼓台を見せていただき、今回も小豆島の皆さんに「お帰り」と迎えていただきました。今年は大学生の皆さんが、日本の原風景をテーマに小豆島を案内してくださり、渡し船に乗って二十四の瞳映画村を訪ねました。映画に登場する昭和の香りが残る木造校舎の窓からは海が見えて、黒板も椅子も机も子ども時代を思い出すような懐かしさがありました。それから、そうめんの箸分け体験をして、次は棚田の風景を望む場所にある竹のアート作品。あの大作を3年ごとに作り替える聞いて驚きました。海外のアーティストと地元の方が約3カ月かけて一緒に作り上げるそうで、その時期が巡ってくると「あゝ祭りだなと感じる。」と地元の方が話してくださいました。地元の人々も参加できる現代アートの祭典、瀬戸内国際芸術祭は、まさに「生きている祭り」だと実感しました。

誇らしく輝く 香川の魅力。

知事対談 山口 智子 × 池田 豊人
YAMAGUCHI TOMOKO IKEDA TOYOHITO

山口 「LISTEN」プロジェクトでは、約10年かけて世界の音文化を追いかけて映像に収めてきましたが、世界の音楽に出合いながらいつも心にあったのは、自分自身の魂のルーツと言える、心の音楽とはなんだろう？という疑問でした。胸を張って自分の「故郷の歌」と言えるものが見つからない欠乏感です。でも地球を一巡りして、日本文化がいかに世界と結びついているかを実感し、故郷日本に本気で向き合ってみようと思えるようになりました。知っているようで知らない日本にちゃんと出会い直すため、よんど

がないだろうなと思います。
知事 それが私もここを離れて、61歳で帰ってくるまでこの海の素晴らしさに気付いていなかったのです。
山口 えっ！本当ですか？でも確かに、人生一巡りして原点回帰する60歳という還暦は、意味深い転機ですよ。まるで生まれたての赤ちゃんのような新鮮な気持ちで、また世界に再び向き合える。再生復活の時ですね。人生一巡りして私もやっと、故郷日本の瀬戸内の素晴らしさに気付くことができました。瀬戸内海の青って本当に美しいですよ。日の光に輝く真つ青な海に漕ぎ出すトキメキと幸福感は最高です。船の上で風に吹かれていると、身も心も解き放たれて、再びムクムクと頑張る力が湧いてきます。
知事 その香川県に、いつでも何度でも帰って来てください。心からお待ちしています。本日はありがとうございました。

知事 瀬戸内国際芸術祭は、地元の方の生活のリズムや生きがいになっているところもあると思います。作品は田舎の空き家にあつたり、堤防の脇にいきなり現れたり。普段は足を運ばないような場所にもあります。アートの力に引かれて、新たな場所の魅力に気付くことができるというわけです。
山口 忙しすぎる東京でのサイクルから抜け出して、島への船に乗った途端、時間の流れが全く変わって、青い海の風に癒やされ心がどんどん解き放たれていく！そして島から帰る時、フリーの甲板から皆さんと別れを惜しむ瞬間が、たまらなく胸に沁みます。互いの姿が見えなくなるまで、ずっと手を振って送ってくれる。まるで映画のワンシーンのような感動です。
知事 見えなくなるまで手を振ってくれる姿には、私もぐっと来ます。ところで、小豆島では食も楽しめましたか。
山口 木桶で作る醤油が素晴らしかったです。自ら木桶を作る技術を学び、その技も伝承されています。歴史あるそうめん作りにも感動しました。生そうめんをいただきましたが、あんなもちもちのそうめんは初めてで、おいしかったです。手間暇かけて管理された鰯も素晴らしかった。島のオリーブオイルで鰯と野菜をソテーした料理をいただいたのですが、これが目からうろこのおいしさ。
知事 「小豆島鰯」は、オリーブオイルとも相性の良い島の新たな逸品です。さて、山口さんは根源的な音楽の世界を旅するという「LISTEN」というプロジェクトを手掛けられています。小豆島でも心に残る音との出会いはありましたか？

